

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-108

|              |   |
|--------------|---|
| 学校名・団体名      | 奄美市立屋仁小学校   |
| HPアドレス       | <a href="http://www.city.amami.kagoshima.jp/yani-e/index.html">http://www.city.amami.kagoshima.jp/yani-e/index.html</a> |
| コース          | 学校支援  |
| 活動・研究<br>テーマ | ふるさとのみどりと伝統を生かして夢を育む教育  |

#### 〈活動・研究の意義、目的〉

鹿児島県奄美大島笠利町のほぼ北西部に位置する本校は、南東に山地が多く、北西部は東シナ海に面する場所にあり、児童数16人、職員数7人の極小規模校である。学校教育目標「郷土を愛し、心豊かで、心身ともにたくましく、自ら学ぶ屋仁っ子の育成」を実現するために、小規模校の特性を生かした教育活動を推進している。様々な教育活動の中で、地域の人材や施設・自然などを積極的に活用し、豊かな体験活動を通して「生きる力」を育成することは、本校の重要なテーマの一つである。

本校の近くには海岸があり、特別な許可を得てウミガメの孵化や放流を行っている。また、平成29年の奄美群島世界自然遺産登録に向け、様々な準備が進められている中、ふるさとの自然や伝統を知ることやそれらを守り後世に伝えることの大切さを日々の教育活動で学んでいる子どもたちにとって、教育活動の場の提供や学習環境の充実によって、より主体的に関わっていこうとする資質や態度を育てることができる。

1 はじめに

奄美市立屋仁小学校は、「郷土を愛し、心豊かで、心身ともにたくましく、自ら学ぶ屋仁っ子の育成」を教育目標に掲げ、学校・家庭・地域が一体となって知・徳・体バランスのとれた児童の育成を目指している。豊かな自然を生かした特色ある活動を展開していく中で、自然や伝統に気付き、大切にしていることとする心情を育むとともに、それらの体験活動を通して自分なりの課題を持ち、具体的な方策を用いて自力・相互解決を進めることができると期待している。

【以下は屋仁小学校の特色ある活動一覧】



| 時期     | 対象者  | 人数  | 活動名              | 活動内容  |
|--------|------|-----|------------------|---|
| 5月～7月  | 1～6年 | 16人 | ウミガメの世話をしよう      | 屋仁海岸に産卵されたウミガメの卵を保護し、孵化した後に放流する。放流までの過程をまとめ情報発信する。  |
| 3月～2月  | 1～6年 | 16人 | サトウキビの栽培<br>黒糖作り | 3月に植えたサトウキビを大切に育て、2月に収穫する。収穫したサトウキビの汁を用いて黒糖を作る。     |
| 4月～9月  | 1～6年 | 16人 | チョウを育てよう         | 学校に飛んでくるチョウの産卵を確認し、観察箱やチョウの家の中で飼育観察する。様子を自由研究にまとめる。 |
| 5月～7月  | 5・6年 | 8人  | 世界自然遺産登録に向けて     | 奄美大島の特色ある生き物や歴史的な名所などを調べ、世界自然遺産登録に向けた子どもなりの情報発信を行う。 |
| 5月～11月 | 1～6年 | 16人 | サツマイモを育てよう       | 5月に植えたサツマイモの苗を世話し、11月に収穫する。収穫したイモを用いて郷土料理を作る。       |
| 4月～3月  | 1～6年 | 16人 | 奄美の伝統を奏でよう       | 地域の先生を迎えて、三味線や島唄、八月踊りを練習する。練習した成果を様々な場で披露していく。      |
| 6月～7月  | 1～6年 | 16人 | 海を楽しもう           | 近くの海岸で海洋型スポーツ(カヌー)をしたり、貝殻採集や海岸の清掃活動を行ったりする。         |

2 特色ある活動の詳細

(1) 自然を生かした体験活動

① ウミガメの孵化と放流 (5月～8月)

4年前から特別な許可をもらい産卵したウミガメの卵を保護し、孵化させたのち放流する活動を行っている。昨年度は奄美市で行われた日本ウミガメ会議の取組として、出前授業(ウミガメの専門家による授業)の機会を得た。その中で人的要因によるウミガメの危機や各種ウミガメの生態、散水による孵化率の上昇など具体的なアドバイスをいただいた。本年度は6月に2回産卵し、247個の卵を採集、孵化場へ移動させた。8月8日に119匹、18日に104匹が孵化し、保護員と連携をとり保護者や地域住民と一緒に放流活動を行った。孵化率は90%を超え、昨年度より大きく上昇した。卵の世話は朝のボランティア活動で行ったが、夏休みに毎日散水や気温、砂温、湿度の計測に取り組んだ児童がいた。その児童は毎日の計測の結果や孵化場の様子を観察し、孵化率の上昇の要因やカメの雌雄の予想を自由研究にまとめていた。



② 校区の豊かな自然を生かした活動

アカショウビンやリュウキュウメジロ、ウスキンロチョウやリュウキュウアサキマダラなど南方系の鳥やチョウが校内に出現するなど、本校は豊かな自然を身近に感じることのできる環境にある。児童は理科や夏休みの自由研究で奄美大島の自然を題材にした学習を行っている。また、近くの海岸でカヌーなどの海洋型スポーツを行ったり、多種の貝を採集し貝標本作りに取り組んだりしている。これらの特色ある教育活動を推進するために、チョウの家やウミガメ孵化場などの補修、身近なチョウや貝を採集し標本にするための標本箱を制作し、全員が取り組めるようにするなど、よりよい環境作りに努めた。



また、校区の自然を学ぶ活動から奄美群島まで枠を広げ、世界自然遺産登録を意識した取組も行った。奄美野生物保護センターの方を講師に迎え、奄美の

自然に関する授業をしていただいた後、児童が興味をもち調べた奄美の自然や見所のもとに、相手意識を持ったパンフレット作成に取り組んだ。5・6年生の8人が作成した



パンフレットは、奄美大島を訪れる観光客を対象としており、奄美空港と名瀬港に置いていただいた。観光客だけでなく、地元の方や外国人の方からも感想をいただき、児童は取組の良さを味わうとともに自然遺産登録へ向けた自分なりにできることを考えることができたようだ。

### ③ 学校農園を用いた活動

約 10a 程の広さがある学校農園では、低・中学年による野菜づくりや全校児童で取り組むサツマイモ、サトウキビ栽培を行っている。地域の方の協力をいただき、学校農園の耕しを行い、緑化・農園計画のもとに栽培活動を開始した。

夏野菜としてナスやオクラ、スイカなど、冬野菜としてブロッコリー、ラディッシュを栽培し、野菜の生長を観察して自由研究にまとめたり、収穫した野菜を食べたりして活動を楽しんでいた。全校で取り組んだサツマイモ栽培では、高齢者の方に苗の植え方を指導していただいた後、毎日の水かけや除草作業に取り組んだ。秋の収穫では、収穫後保護者の方とサツマイモ料理を作ったり、収穫したサツマイモを近くの販売所に出荷して、販売活動を体験したりした。次年度は栽培面積を増やし、販売で得た収益で新たな取組を行う計画である。

また、サトウキビ栽培では、3月にたね植えを行い、夏季の水かけやねずみ駆除に留意しながら栽培を進めた。2月に親子で収穫作業をし、収穫したサトウキビの汁を使って、黒糖作りにも取り組んだ。石灰を入れることにより、キビ汁が酸性から弱アルカリ性に変化することで凝固が進むことも学習した。



### (2) 伝統文化の伝承

地域の人材を生かし、三味線やちぢん太鼓、島唄、八月踊りなど奄美の伝統文化を伝承する活動にも取り組んでいる。総合的な学習の時間は、地域に住む方から三味線や島唄、八月踊りを習っており、本年度も学習発表会、音楽発表会、地域行事等で披露した。無くなりつつある方言を大切にする取組として、奄美市の協力をもらいながら島口の伝承活動にも取り組み始めている。島口かるたや島口カレンダーの活用については、次年度から本格的に開始する予定である。本年度は笠利地区のまちおこしフェスティバルにて伝統芸能を発表する機会を得た。子ども育成会が中心となって練習を重ね、勇敢な屋仁棒踊りを披露することができた。地域の伝統的な文化を伝承する活動は、郷土教育の原点であり、これらがバックボーンとなって子どもたちのよりよい生き方へとつながっていると考える。校区を原点として奄美大島全体に広がる伝統文化の理解や伝統を守ろうとする心情の育成、さらにはよりよい郷土を目指した具体的な取組へと発展させていきたい。

### 3 おわりに

子どもたちが生活している地域には様々な教育的素材があふれている。それらの素材を教育課程に位置付け有機的に取り組ませることにより、子どもたちが健やかに成長してきている。郷土の自然や伝統文化の良さを味わい、それらを大切にしていこうとする心情や実践的な態度も育まれてきた。学んだことを自分なりに整理し、他へ情報発信していく実践的な取組を行うことにより、より積極的な心情や実践力を育むこともできた。「やんばる国立公園」の指定、そして「琉球諸島・奄美群島」の世界自然遺産登録へ向け、その対象となる本校区の豊かな自然及び文化の伝承など今後も積極的に教育活動に取り入れていきたいと考える。

